

中地区公民館運営審議会概要

中地区公民館

実施年月日	第5期 第3回運営審議会	平成28年6月15日(水)
会場	中地区公民館 4階会議室 午前10時00分から	
出席者	運営審議会 委員	大桃 伸一、葦澤 均、安原 達夫、井上 秋江、 熊倉 浩美、丸山 昇一、小浜 由美子、齋藤 由紀 (太田三平委員、高橋まり子委員は欠席)
	事務局	中地区 公民館
		石山地区 公民館
おもな議題	(1) 平成27年度 事業報告について・・・資料1、1-1、1-2 (2) 平成28年度 事業計画について・・・資料2、2-1、3、4	
(鷲尾館長あいさつ)		
(葦澤委員就任あいさつ)		
(議長あいさつ)		
(1) 平成27年度 事業報告について		
公民館事務局	(以下、資料1、1-1、1-2に沿って説明)	
大桃議長	ありがとうございました。ただいまのご説明について、まとめて質問やご意見がありましたらお願いいたします。	
安原委員	簡単な質問なのですけれども、中地区公民館と石山地区公民館を比較して、石山地区公民館のほうは企画委員希望者数というものが出ていまして、トータルで26人、中地区公民館については一人もいないということで、そういうアンケート調査のようなものをしていないのでしょうか。	
丸山委員	やっていますよね。やっているけれども、そこに書かなかったのです。	
安原委員	項目として挙がっているのだから、やっていたら書くべきでしょう。	
公民館事務局 鷲尾館長	そうですね。申し訳ありません。	
公民館事務局 土沼主任	私個人の感想なのですけれども、やはり次年度の事業を見据えて、その年の事業の終わりのときに企画委員を募るなり、そういった努力をもっとすべきかなと、今ご意見をいただいて感じました。今年度のことだけを考えるのではなくて、次年度の取り組みのためにそういった企画委員の募集も必要だなと思います。	
安原委員	これについては、何か事業をやったときに、継続的にやるときに、成否がかかるのは誰がリーダーシップをとるかなのです。全て。せっかくうまくいっても、手を挙げる人が誰もいないと大体それでぼしょってしまうので、そこを一番大事にしてほしいなと思います。	
丸山委員	では、私から2点、まず、中地区公民館の館長評価のところ、石山地区公民館はAがいくつありますか、中地区公民館の場合はAが0なのですね。遠慮さ	

	<p>れないで、もっと事業を拡大していくというものを出されると良いのではないのでしょうか？逆に、C、Dですか。これも思い切って、これはもうやめてもいいのかなというものを選んで良いと思います。事業の中には積極的に取り組んでほしいものもたくさんありますので、Aランク付けした上で内容の見直し、改善を加えて拡大を目指してほしいと思います。</p> <p>もう一つ、少し余計な話ですが、先日、内館牧子さんの「終わった人」という本を読みました。これはどういう本かと言うと、東大法科を出てメガバンクに就職、のちに出向して出向先の専務を退任して会社を辞めるのですが、会社を辞めたら奥さんと旅行にでも行こうかと計画して奥さんに提案したら、奥さんはすでに今まで培ってきた自分の生活スタイル、地域コミュニティに参加したり、自分なりの生活スタイルが確立していて、「私はいいです」と断られてしまう。定年のお父さんとしてはやる事がなくなってしまうんですね。地域デビューしようと思っても知り合いもないし、職安で職探しもしますが学歴や経歴が逆にジャマになって容易に仕事も見つからず、結局事業に手を出して失敗、老後資金も失ってしまう。というのが大筋の物語です。</p> <p>定年を迎えた団塊世代の企業戦士が読むととても身につまされる物語で、最近売られている本です。公民館の事業をでもシニア向けに「アクティブシニア」等と銘打って団塊世代の企業戦士の定年になった方々のための事業をすすめていただいておりますが、参加者からは評判が良いのに、せっかくの講座に男性がなかなか参加してもらえなくてご苦勞をおかけしています。さきほど野口館長もおっしゃっておられたが、運動をする講座をやっても全体30人のうち10人が男性、野口館長が挙げた例はまだ男性が多いほうですよ。</p> <p>シニアの男性がもう少し公民館の敷居を低く感じていただけて来ていただき、「体を鍛える」「脳を鍛える」「同世代の地域の人たちと触れ合う」健康な体を維持しながら「地域に溶けこむ、活躍する」きっかけづくりを公民館が中心になって進めていただきたいと思います。</p> <p>そういう意味で、先ほどお話ししたAの項目にシニア向け事業、地域コミュニティ事業というものをもう少し増やしていただき、継続して取り組みをお願いします。</p> <p>募集をしてもなかなか思うように参加者が集まらないことも多くご苦勞をおかけしますが、参加者が口コミでPRしていただけるような、評判となるような講座を我々も一緒になって工夫して取り組んでいきましょう。</p> <p>以上、2点です。</p>
大桃議長	何かご意見はありますか。館長。
公民館事務局 鷺尾館長	<p>お二人の委員のおっしゃるとおりでございまして、まず、安原委員が言われた企画委員の件につきましては、実はまったく企画委員を募集していないということではないのですが、少し言い訳がましいのですが、各担当が一生懸命やっけて、また企画委員から企画委員を紹介してもらったりみたいな形で一生懸命やっているわけなのですが、私にそこがよく見えていなかったということですね。組織としてもそういったことを心掛けていくし、かつ私もしっかり把握して</p>

	<p>いきたいと思っております。リーダーシップ、その事業の成否がそこにかかっているというのは非常に重く受け止めたいと思います。</p> <p>それから、丸山委員が言われましたA評価がない、C、D、もっと取捨選択と言いますか、きちんと評価をしていったらいいのではないかとということで、おっしゃるとおりだと思います。少し遠慮しているところがあったかなと思います。自分の気持ち的には、これは言い訳なのですけれども、CC講座が昨年非常にいい成果を上げておりますので、この方向で力を入れていくべきということで、今年度もぜひ力を入れていきたく思っておりますし、実は内部的にはいくつか、これは今年度はしないようにしようと、そういったことを話し合っているのです、それをはっきりとCやDに数として計上すればよかったかなとは思っております。</p> <p>それから、終わった人という本を紹介いただいたのですけれども、確かに本当に大勢の方が今、毎年度多数退職しているにもかかわらず、公民館デビューの数がほんの少しだと思うのです。そういった方をぜひうちの、うちだけではないのですけれども、うちが引っ張り出す一助にしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。</p>
熊倉委員	<p>アンケートのことなのですが、受講者の意見は次年度以降の事業のためにすごく貴重だと思うのですが、アンケートがとられていない講座がけっこうあるようなのですが、もっと多くの講座でアンケートを書いていただくことはできないのでしょうか。アンケートをとっている講座に限られている感じが。</p>
公民館事務局 野口館長	<p>アンケートをとっていない講座というのは共催事業になっておりまして、メインの学校なりがいらっしゃって、それから大勢参加されるもの、何百人単位とかというものがとっていないものが多いのですが、こちらからも今後アンケートなどをとりませんか働きかけをしてみたいと思います。</p>
公民館事務局 鷺尾館長	<p>中地区公民館のアンケートの状況なのですが、何百人も自由に参加するようなイベントではなかなかアンケートはとりづらいというところがあります。連続講座みたいなもの、いわゆる家庭学級講座みたいなものは、正直言ってとりやすいといえますか、そういうところがあります。ただ、確かに受講者の意見というものが一番大事な意見ですので、とれるところはアンケートをしっかりとっていきたく思っています。</p> <p>学・社・民の融合の部分はアンケートは全然とっていないのですが、これは生徒ということもありまして、これもなかなか難しい。簡単なアンケートをキャンプなどではとっているのですが、4事業のうちの一部だったりして挙げるのをためらわれて計上していないというものもありますし、できるだけとっていきたく思っています。</p>
菰澤委員	<p>中地区公民館の2番の学・社・民のところなのですが、下山中学校での交流会が書いてあるのですが、前年、山の下中学校でも6年生、1年生の交流会みたいなものが2回ありまして、一つは小学校6年生の体験入学をやって</p>

	<p>いまして、10月、11月くらいに6年生が来て、まず1時間は中学校の先生からの模擬授業を中学校ではこんな授業をやっているよということを受けて、そしてその次の時間、2時間目というかその次の時間は中学校1年生との交流会をやっています。中学に入ってこんなことをやって、こんなことがありますよということの話を聞くことがあります。</p> <p>もう一つは、青少年育成協議会主催の6年生の交流会で、山の下小学校と桃山小学校が来るので6年生同士の交流会を山の下中学校でやって、そして吹奏楽を演奏して少し関わり合うということで、2回やっているのですけれども、ここに書いてあるように中1ギャップ解消を目的とまでは踏み込んでいないというところがあります。中学校の様子を知る、あるいは一緒になる相手の小学校の6年生の様子を知ることなのですね。ですので、ここにありますように、公民館の資源やノウハウで活かせるものがあればこの下山中学校の記録も含めて提供していただくと、中学校も2回やっているものをもじかしたら1回でいけるかもしれないし、まさに中1ギャップ解消にもう一步踏み込めるかもしれないので、そういったご提案をいただけないかなと思います。</p> <p>年間で組んでいる行事ですので急に变えるのは難しいかもしれないのですけれども、ちょっとしたアイデアになるかもしれませんので、ぜひお願いしたいと思います。</p>
大桃議長	<p>ほかにはいかがでしょうか。では、時間の関係もありますので、もしありましたら後でお願いいたします。</p> <p>では、次の議題の「平成28年度の事業計画について」事務局からご説明願います。</p>
(2) 平成28年度 事業計画について	
公民館事務局	(以下、資料2、3、4に沿って説明)
大桃議長	ありがとうございます。ただいまのご説明について、何かご質問やご意見はございませんでしょうか。
小浜委員	<p>今回が初めてということで、安原委員が中心になられて「編み物体験」の講座を立ち上げてくださったということなのですが、時間帯的にも土曜日の夜であったりしますので、お若い方とか、まだ働いている現役世代の方とかが参加しやすい講座でもありますし、それをきっかけにお好きな方たちが編み物や手芸のサークルを立ち上げようとか、裾野が広がっていけばいいのではないかなと思ってすごく参考になりました。そういう企画がいろいろな形で増えていけばいいなと思います。ただ一つ、その講師の方が手弁当だということであれば、その辺はどうなのかなと思います。</p>
安原委員	<p>協議会で予算を組んでいますから、公民館に頼んでも金がないから、何もできないのですよ。去年から私どもは5万円ということで予算を組んで、講師の方にもきちんと謝礼を払います。タダ働きはさせませんから。そういうことでやっていますので、しかも土曜日の夜というのは、私の理想から言うと、小学校の高学年もできますから、高学年からおじいちゃん、おばあちゃんまで全部一つの輪とし</p>

	<p>てやってほしいというのが私の願いなのです。ですから土曜日の夜ということにして、体験をやれば当然その時間帯に来られる人しか来ませんから、できればではなくて、私は、前提はサークルを作るのが前提ですから、それに向かって進んでいるので、できたらではないのですよ。そこに向かって進んでいくというやり方です。すべて。</p>
齋藤委員	<p>いろいろな新しい試みなどもあっていいのかなと思うのですけれども、個人的なことなのですけれども、ある人から、「ゆりかご学級」を受けたときに男女平等ということを教えてもらって、育児も男女平等だからご主人にも同じく育児に参加してもらおうということを教えてもらったけれども、初めての子どもを持って、そのように教えてもらっていざやってみるとやはりうまくいかない。それにすごく不信感というか違和感を感じていたのだけれども、その話してくれた友達は、やはり母親と父親という言葉があるように、父親は父親の働きがあって、母親は母親の働きがあるのだということを何かで知ってから、「ゆりかご学級」で教えていただいたことに固執しなくてもいいのだということが分かったという話を聞かせてもらって、私も小学生期の企画委員をしていますけれども、何かこうだと教え込むという言い方はおかしいのですけれども、影響力というのはやはり大きいのだなということを感じて、もっと慎重にいろいろな幅広い心を持って講座を企画しないといけないのだなということを感じました。やはり地域コーディネーター育成講座とかいろいろな講座においても、いろいろな手法や企画を押しつけて終わるよりは、やはりまずは人間性というか、何かを育てることがこの地域をもっと活性化してよくしていくことなのかなということ、少し観点がずれているかもしれないのですけれども、やはり公民館というのは、そういう場でないといけないのかなということを感じました。ですので、来年度の事業にそういうことを意識しながら、私も企画委員として何か意見や貢献できるようにしていきたいと思いました。</p>
大桃議長	<p>ありがとうございました。公民館から、今のご意見についていかがでしょうか。</p>
公民館事務局 鷺尾館長	<p>世間的にいろいろな価値観がある。また、いろいろな価値観を持った方がいらっしゃる。公民館が講座を企画するときに、ねらいはあるわけなのですが、特定の考え方だけをいわば絶対のものとしてこれが絶対に正しいという講座の仕方と、二つの意見をそれぞれ持った方をそれぞれ呼び出して、例えばこういう意見もあるしこういう意見もあるという講座の組み方と、いろいろあると思うのですが、まず公民館職員としては、特定のものだけを押し付けるのではなく、こういう考え方もあるということも考慮しながら講座を企画しなければいけない。そういう齋藤委員のご意見だと思うのですが、まさにそのとおりだと思います。</p> <p>ただ、今感じたのは、1回の講座で違う考えの講座を入れるのか、あるいはそうではなくて年間の中で、例えば今回はAという価値観の講座、価値観と言うと失礼なのですが、そして年間の中でバランスをとる、あるいは場合によっては石山とうちで違うタイプのものをやるとか、そういった工夫もやるべきかなと思って聞かせていただきました。ありがとうございました。</p>

大桃議長	ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。副委員長、何かございますか。
井上委員	前年度の反省に基づいて、チラシなどを見せていただくと、今年度はそれぞれのことをマンパワー的にやっていっていらっしゃるなと思って、そういう感想です。
大桃議長	ありがとうございました。
丸山委員	予算が毎年毎年減っていますが、さきほどの安原委員のように、いろいろ工夫をされて講師にお金を払っていただいたりしているのは本当にありがたいところです。いろいろなところで聞くと、「公民館は講師に払うお金は少ないからね」といつも言われます。苦しい中でいろいろ努力をいただいていると思いますが、両館長にはできるだけたくさん予算がもらえるように工夫をお願いし、我々も一緒になって工夫していかないと、段々事業が縮まってきてしまいますよね。そういうことで、お互いに工夫しながら頑張っていきたいなと思いました。
安原委員	それに関連してですけれども、これはやはり 93.5 パーセントはまずいですよ。残り。これは、限りなく 100 パーセントに近いくらいにしてやっていくのが公民館の仕事だと思います。残したら絶対に削られますよ。私が上だったら絶対削っていきます。これはいらないから削ろうということになるから、赤字になってでも使わないと。
公民館事務局 鷺尾館長	頑張ります。
安原委員	課題です。
大桃議長	では、次に「その他」にいきたいと思います。事務局からお願いします。
(その他事項について事務局より説明)	
(大桃議長あいさつ)	
(事務局あいさつ)	